

事業再評価(原案)

山陰自動車道
(宍道JCT ~ 出雲IC)

1. 事業概要(宍道JCT~出雲IC)

路線名:高速自動車国道 山陰自動車道鳥取益田線

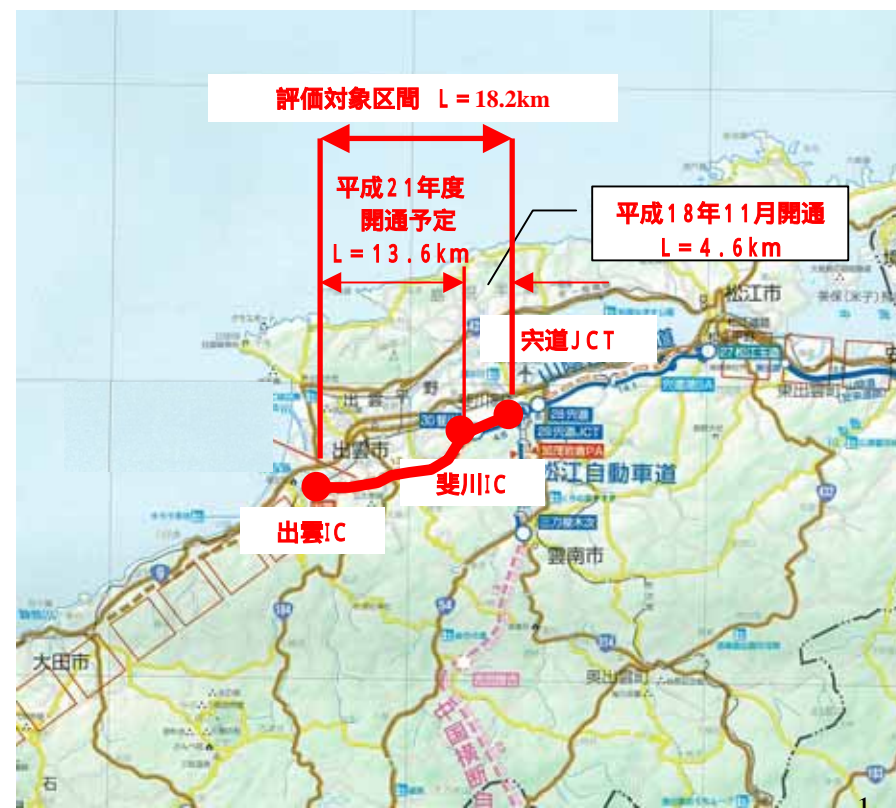
区 間:島根県松江市宍道町~島根県出雲市知井宮町

延 長:18.2km(うち開通済み4.6km)

規 格:第1種第2級、設計速度100km/h(完成型)

車線数:暫定2車線(用地4車線)

事業費:650億円



2. 事業の経緯及び進捗状況

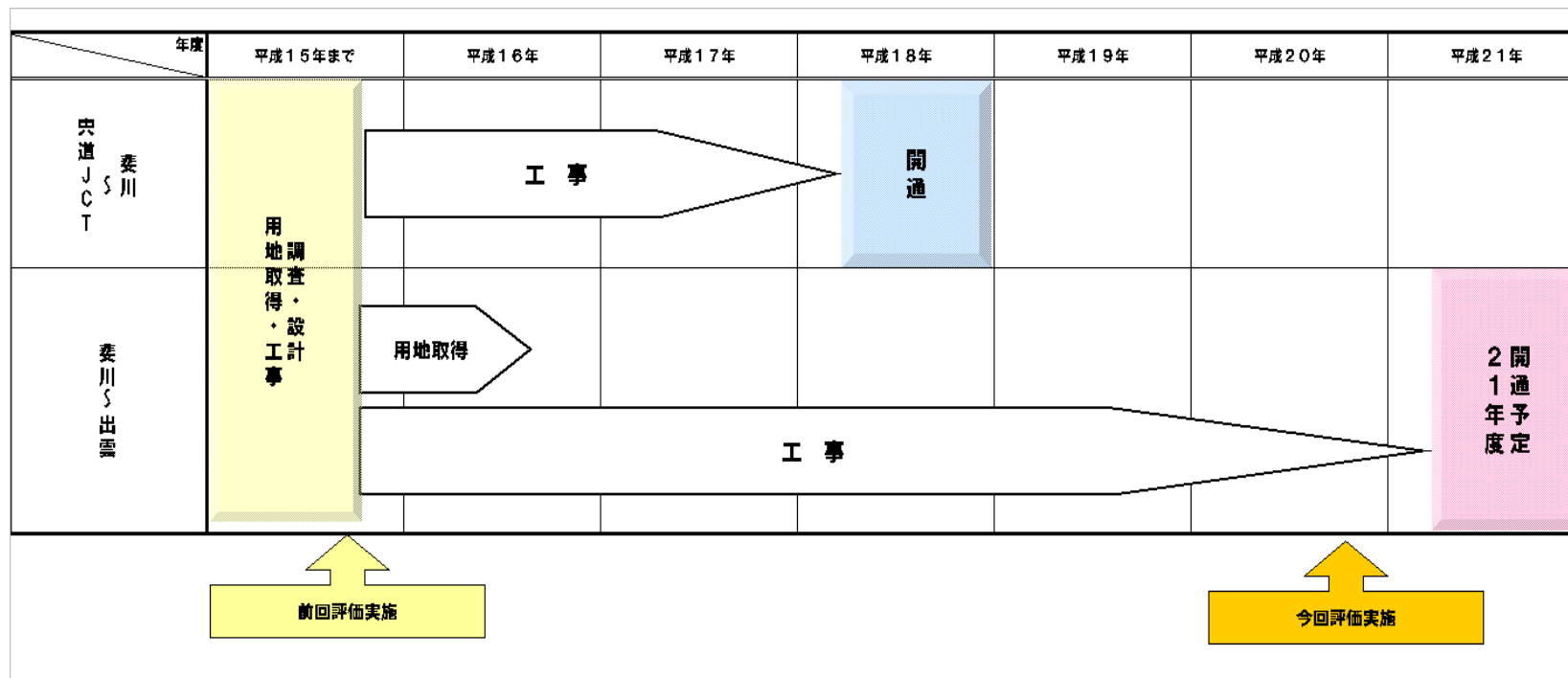
事業の経緯

整備計画	平成 8 年 1 2 月
施行命令	平成 9 年 1 2 月
実施計画認可	平成 1 0 年 1 月
整備計画変更	平成 1 8 年 2 月
事業変更許可	平成 1 8 年 3 月
穴道J-斐川開通	平成 1 8 年 1 1 月
斐川-出雲開通予定	平成 2 1 年度

進捗状況(平成20年度末見込み)

事業進捗率	7 9 % (事業費ベース)
用地取得率	1 0 0 % (面積ベース)
工事着手率	1 0 0 % (延長ベース)

【現在の状況】
平成 2 1 年度の開通に向けて工事全面展開中である。



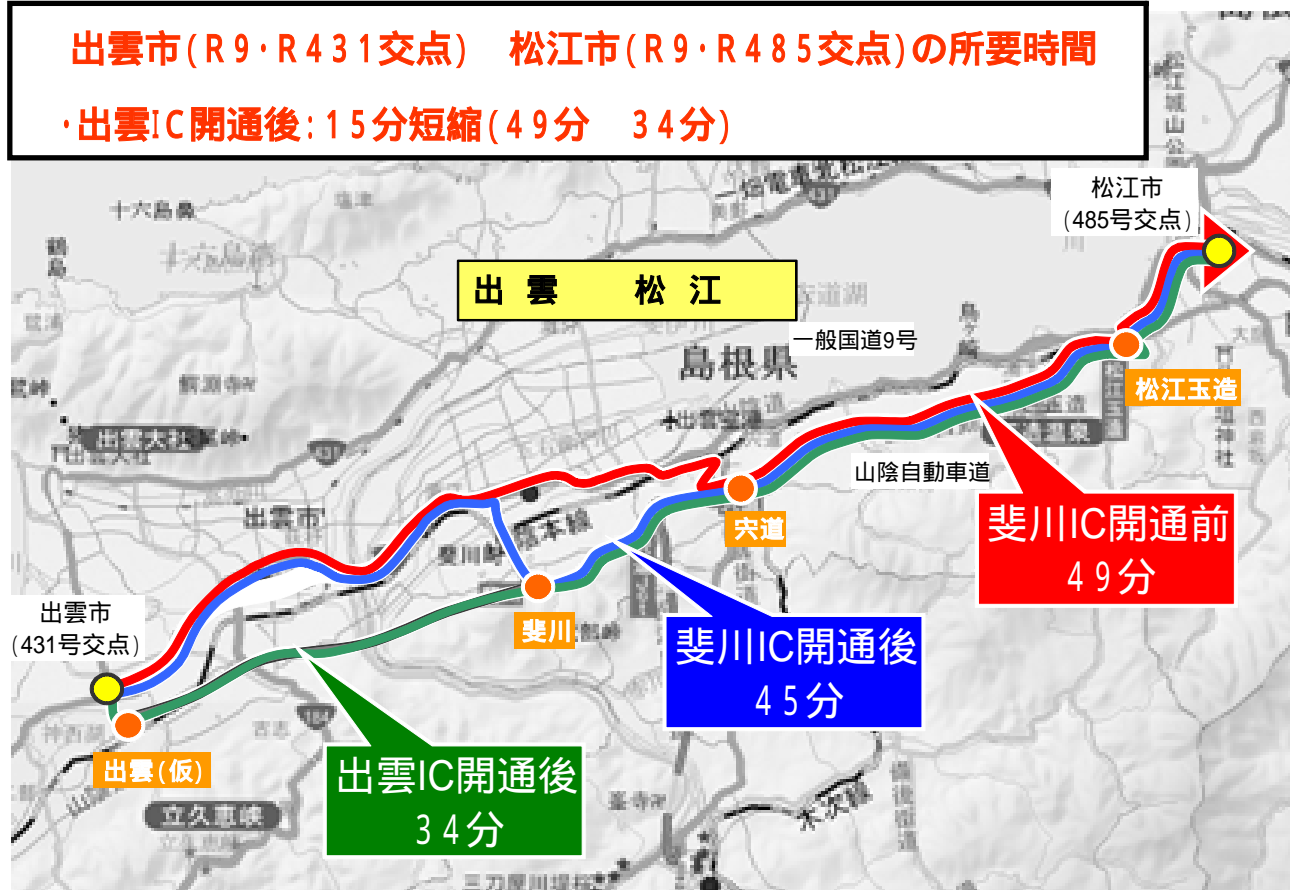
3 . 事業の整備効果

松江から出雲までの所要時間は、出雲ICまでの開通により、短縮され、アクセスが向上する。

出雲から松江までの所要時間の変化

出雲市(R9・R431交点) 松江市(R9・R485交点)の所要時間

・出雲IC開通後:15分短縮(49分 34分)

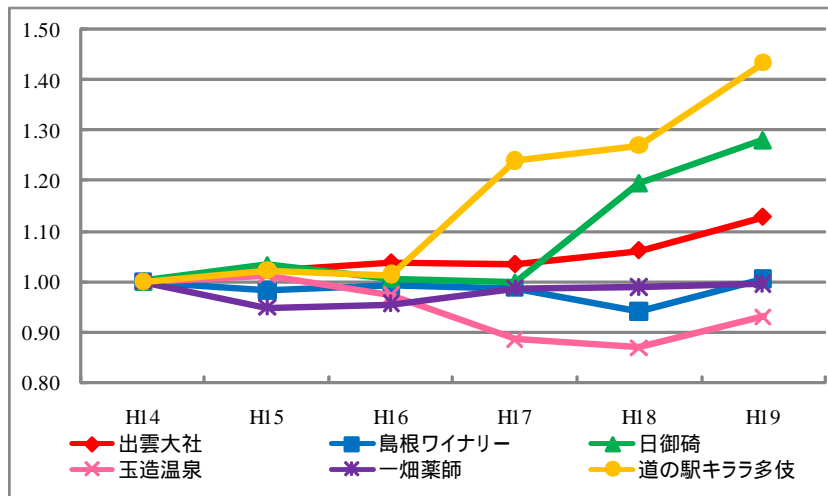


資料: 道路時刻表(2005~2006、2007~2008)、
道路交通センサス、NEXCO西日本HP

3 . 事業の整備効果

出雲エリアには、年間観光客数が100万人を超える出雲大社、日御崎、島根ワイナリーが存在し、出雲ICの開通により、玉造温泉や宍道湖などと松江エリアと連携した観光客の増加が期待される。

観光客数の推移



主要観光施設



出雲大社 (昭和27年3月国宝指定)



宍道湖



玉造温泉



3 . 事業の整備効果

出雲市や斐川町の農水産物の特産品(シジミ、デラウェア、ブロッコリー、斐川たまねぎなど)の京阪神・全国に向けた出荷を支援し、地域産業の発展に寄与する。

シジミ



デラウェア



かあちゃんブロッコリー



斐川たまねぎ



【出雲市・斐川町の特産品】

シジミ

- ・ヤマトシジミは全国で約2万トンの漁獲がありますがそのうち約40%は宍道湖でとれている。
- ・宍道湖は、市場に出回るシジミの99%以上であるヤマトシジミの産地であり「宍道湖シジミ」のブランドは全国的に有名。

デラウェア

- ・島根県のぶどう(デラウェア)の栽培面積は218haで、全国一。
- ・JAいずも管内ではその約8割(183ha)もの面積(斐川町では9ha)で栽培され、全国の市場に出荷されている。

ブロッコリー

- ・阪神地域を中心に広島などでも販売。
- ・かあちゃんブロッコリーの愛称で親しまれている。

斐川たまねぎ

- ・昭和55年に国の産地指定を受けている。
- ・県内市場はもとより大阪市場、広島市場などにも出荷されている。

京阪神及び全国へ出荷

資料:斐川町HP、JAいずもHP

4 . 費用便益分析の結果

区間) 山陰自動車道(宍道JCT ~ 出雲IC)

便益(B) (現在価値：H20)	走行時間短縮便益	1,013 億円
	走行経費減少便益	113 億円
	交通事故減少便益	40 億円
	計	1,166 億円
費用(C) (現在価値：H20)	事業費	654 億円
	維持管理費	90 億円
	計	744 億円



費用便益比 $B / C = 1 . 6$

費用便益分析マニュアル(H 2 0 . 1 1 国土交通省道路局都市・地域整備局) に基づき算定

注 1) 費用及び便益額は整数止めとする。

注 2) 費用及び便益の合計額は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

5 . 対応方針（原案）

事業の必要性等に関する視点

費用対効果（B / C）は1 . 6である。

- ・ 国道利用と比較して距離・所要時間が短縮
- ・ 観光地へのアクセス向上による観光産業の振興
- ・ 物流の効率化による地域産業の活性化

など便益に反映されていない効果も含め、当該区間の必要性は高い。

事業進捗の見込み

- ・ 供用予定は平成21年度であり、現在、用地取得が完了し、工事全面展開中である。

対応方針（原案）

【事業継続】

関係機関の協力を得ながら、早期の供用を目指し、事業の進捗を図っていききたい。